

企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)のご案内

Japan Business Initiative for Biodiversity

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブは、2008年4月に発足した、生物多様性に関する取り組みへの意欲の高い企業のあつまりです。現在では、46社の企業が集まり、最新情報やノウハウの収集、そして企業間のネットワーキングを積極的に行っています。JBIBの取り組みは国内外で高い評価を受け、環境白書や生物多様性条約への国別報告書、持続可能な経済人会議(WBSCD)の“Eco4Biz”(生物多様性を事業に組み込むためのツールを紹介する報告書)等でも紹介されています。

主な成果物

企業が生物多様性への取り組みを進めるためのツールとして、以下のような成果物も作成してきました。

- 生物多様性への取り組みヒント集
- 企業と生物多様性の関係性マップ®
- いきもの共生事業所®推進ガイドライン
- 生物多様性に配慮した企業の水管理ガイド
- いきもの共生森づくりガイドライン
- 生物多様性に配慮した企業の原材料調達推進ガイド

※詳しくはJBIBウェブページ (<http://jbib.org/about/output/>) をご覧ください。

会員制度

JBIBには、以下の2種類の会員制度があります。

- 正会員
ワーキンググループ活動に参加して、生物多様性に取り組むためのツールやガイドラインなどを開発します。生物多様性に本格的に取り組みたい企業様におすすめです。
- ネットワーク会員
生物多様性入門連続講座などへの参加を通して、生物多様性の基礎的な知識から、具体的な取り組み方までを身につけていただけます。生物多様性にどのように取り組むべきか検討している、これから取り組みをはじめようとしている企業様におすすめです。

理事

会長 藤井 史朗	(MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社 顧問 三井住友海上プライマリ生命保険株式会社 取締役会長)
副会長 磯野 正智	(株式会社竹中工務店 執行役員 経営企画室長)
副会長 白神 浩	(味の素株式会社 執行役専務 Chief Innovation Officer (CIO) 研究開発統括)
稲継 明宏	(株式会社ブリヂストン サステナビリティ推進部部長)
上山 健一	(花王株式会社 ESG 部門 副統括)
樽林 康治	(三菱地所株式会社 サステナビリティ推進部部長)
鈴木美佳子	(株式会社リコー コーポレート執行役員 ESG 担当 ESG 戦略部 部長)
事務局長 足立 直樹	(株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)

主な活動内容

■全体会（月次）

月に一度正会員が集まり、生物多様性に関する最新情報の共有や、各ワーキンググループの取り組みの進捗報告、会員企業の取り組み紹介などの情報交換を行っています。

■ワーキンググループ活動

JBIBには7つのワーキンググループ（WG）があり、それぞれがガイドラインや、取り組み推進のためのツールを開発しています。正会員は、各社1つ以上のWGに所属することができます。WGに参加することで、開発するガイドラインやツールをいち早く業務で活用することができるだけでなく、WG活動を通して情報共有やネットワーキングを行うことができます。

2021年度のワーキンググループ活動は以下の通りです。

【ESG 情報開示研究 WG】

ESG 投資家からの評価の側面や、それらにどのように対応し情報開示をするのかを研究し考えていきます。代表的な評価機関の内容及び、そこに生物多様性がどのようにかかわっているのかを調べ研究を始めます。

【緑地価値発見コミュニケーション WG】

企業緑地のいきもの調査など具体的な行動を通して緑地の価値を発見し、情報共有しつつ社会へ広げていくよう努めます。また、外来種の大きな流れを理解し、各企業が取り組めるようにしていきます。

【サプライチェーン研究 WG】

サプライチェーンの中で何に気を付けるべきかという事を研究していきます。一年の研究内容をレポートにまとめることを目標とし、NGO の話を聞く等の様々な機会を設けていきます。

【SDGs 街づくり研究 WG】

まずは参加者の知識レベルを高めていくことを目標とし、アウトプットを定めそれに向けて進めていきます。専門家を招き議論をして、応用したツールを作っていきたいと考えています。

【海洋プラスチック研究 WG】

海洋プラスチックのみならず、プラスチックのサーキュラーエコノミーなども調べていこうと考えています。また、欧州、中国を中心に国際動向を調査していきます。

【新しい国際枠組み研究 WG（2021年度新設）】

生物多様性に関わる新しい国際的な枠組みが動き出し、またレポートも発行が増えています。そうした情報を広く浅く収集し研究していきます。

【OECD 実践 WG（2021年度新設）】

産学官民連携で現場実践しながら OECD を学ぶ場を創出します。

■生物多様性入門連続講座

1年間、全6回の講座を通して、生物多様性に取り組む意義から実際の取り組み方まで理解していただきます。生物多様性に取り組む先進企業の担当者から生の話も聞くことができ、どうしたら無理なく実行できるのか、現実的なやり方を学べます。

2021年度		テーマ
第1回	5月	生物多様性とは何か～企業にとっての意味～
第2回	7月	生物多様性に組織的に取り組む方法
第3回	9月	先進企業に学ぶ生物多様性の取り組み方
第4回	11月	生物多様性と原材料調達リスク
第5回	1月	生物多様性に関する国際動向
第6回	3月	NPO/NGO とのパートナーシップ

※詳しくはJBIB ウェブページ（ <http://jbib.org/lecture/> ）をご覧ください。

■現地見学会・生態系体感研修会

百聞は一見に如かず。生物多様性保全の優れた取り組みを実際に見学します。1日で行う現地見学会（1～2回/年）と1泊2日で行う生態系体感研修会（1回/年）を開催しています。

■外部講師を招聘しての勉強会

生物多様性に関するホットなテーマについて、外部の専門家を招いて勉強会を開催しています。これまでに、生物多様性に配慮した持続可能な原材料調達、環境影響の定量評価（ライフサイクルアセスメント、エコロジカルフットプリントなど）、外来種問題、企業と水リスクなどをテーマに行いました。

■経営者懇談会

年2～3回、各社の経営層の方々にご参集いただき、生物多様性に関わる国際的動向の情報共有や、今後のJBIBの活動展開についての意見交換を行っています。生物多様性を経営に組み込むために役立つと好評をいただいています。

■情報発信

JBIB や会員企業の取り組みを、国内外に向けて積極的に発信しています。

- エコプロダクツでのシンポジウムの開催
- 「企業が語るいきものがたり」（三井住友海上が毎年開催）への特別協力
- 生物多様性条約 COP や各種の国際会議での発表、サイドイベントの開催 など

■省庁、自治体との意見交換

環境省、農林水産省をはじめとした省庁や東京都などの自治体と意見交換を行い、企業が生物多様性に取り組むやすい環境の整備を推進しています。

正会員とネットワーク会員の違い

正会員とネットワーク会員では、参加いただける活動が以下のように異なります。

活動	正会員	ネットワーク会員
全体会（月次）	○	○*
ワーキンググループ活動	○	-
生物多様性入門連続講座	○	○
現地見学会	○	○
生態系体感研修会	○	○*
外部講師を招聘しての勉強会	○	○*
経営者懇談会	○	○*
年次総会	○	-
正会員用メーリングリスト	○	-
ネットワーク会員用メーリングリスト	-	○
情報共有用メーリングリスト	○	○
年会費（不課税）	315,000 円	210,000 円

※空席があれば参加可能

会員企業

正会員：30社（企業名 50音順、2021年6月2日現在）

味の素株式会社	サラヤ株式会社	凸版印刷株式会社
アスクル株式会社	サントリーホールディングス株式会社	日本生活協同組合連合会
イオン株式会社	清水建設株式会社	パナソニック株式会社
SGホールディングス株式会社	住友林業株式会社	富士ゼロックス株式会社
ENEOS株式会社	積水化学工業株式会社	富士通株式会社
MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	積水ハウス株式会社	株式会社ブリヂストン
大阪ガス株式会社	大東建託株式会社	三菱地所株式会社
花王株式会社	大日本印刷株式会社	森ビル株式会社
カルビー株式会社	株式会社竹中工務店	株式会社リコー
株式会社グリーン・ワイズ	株式会社地域環境計画	レンゴー株式会社

ネットワーク会員：16社

株式会社 ADEKA	株式会社日清製粉グループ本社	マルハニチロ株式会社
大塚製薬株式会社	日本ケミコン株式会社	明治ホールディングス株式会社
株式会社大林組	日本水産株式会社	三菱商事株式会社
コクヨ株式会社	古河電気工業株式会社	ユニ・チャーム株式会社
ソフトバンク株式会社	株式会社日立製作所	
大成建設株式会社	不二精油グループ本社株式会社	

ご入会のご希望やお問い合わせは、下記までお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先：一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ
E-mail: sec@jbib.org 電話：045-228-7696 URL: <http://jbib.org/>